

## 第6戦 フランスGP (ルーアン) 決勝

[初] Part1(349)



J.シュレッサーは、練習走行から様々なトラブルに見舞われ、最後尾からのスタートとなった。雨の決勝レースとなった3周目、スタンド前を下り、ヌーヴォーモンドに差し掛かった所で、シュレッサーは衝突事故を起こしてしまう。

マシンは裏返しになり、飛び散った燃料に引火して炎上、彼はこの事故で他界した。

この事故をきっかけにホンダはF1から撤退、第1期ホンダF1の終焉となった。

また、このレース以降にルーアンでF1は開催されていない。

1968年、本田技研は「ライフ」のような空冷FFの小型車の開発に成功。

これをきっかけに、「自然空冷のF1」という前代未聞のアイデアが生まれた。

技術陣が反対したにもかかわらず、開発が始まり、遂に自然空冷F1マシン(RA-302)を作り上げた。

しかし実際のテストにおいて、これまでに無い美しい姿とは裏腹に取柄のないマシンで、GPには水冷のRA-301が使われていた。

前代未聞の空冷F1はお蔵入りになる筈だったが、この年のフランスGPの数日前、それは持ち出され、ホンダのフランス支社から出場したといわれている。

[Jean-Pierre Beltoise Rouen Les Essarts 1968 - 2 \(YouTube\)](#)

6分30秒頃に該当クラッシュの映像あり

## 第10戦 カナダGP (モン・トランブラン) 予選中？

J.イクス 重傷事故

Broke leg after throttle stuck open.

(´・`y) ~~~ この記事は更新待ちです。